



自己紹介

小山田 大和



- 1979年生まれ。42歳。学生時から地域の活動に関わる。小田原市行財政改革検討委員(09-10)社会教育委員、二宮町地球温暖化対策事業化実施研究会委員、松田町自然エネルギー 活用に関するあり方研究会、木質バイオマス利活用検討委員会委員を経験。

合同会社小田原かなごてファーム 社長

松田町再生可能エネルギー協議会委員

早稲田大学招聘研究員



2021年度 本の出版へ

- 『仮称)未来は現場(ここ)にある』
- 前川喜平(元文部科学事務次官)、古賀茂明(元経産省職員)、吉原毅(元城南信用金庫理事長)らとの対談も収録。

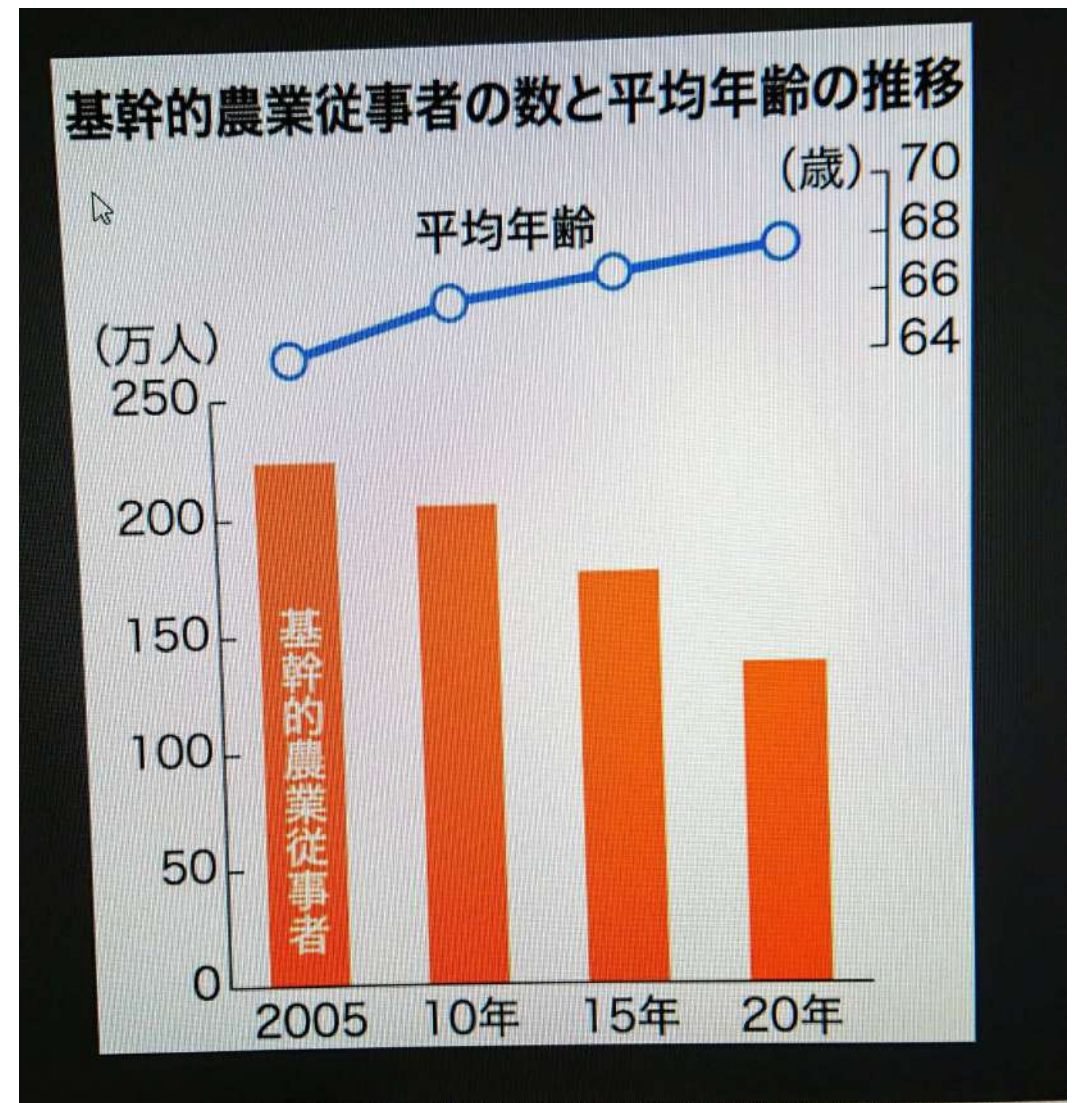


日本の農業の現状

農業人口136万人の衝撃

- 平均年齢68歳
- 農業人口136万人
- 前回の東京オリンピック時(1964)の1割の水準
- 食料自給率37%
- お米の値段いくら？
- みかんの値段いくら？

→持続可能か？



農の付加価値を高める動き

おひるねみかんジュースの開発(2014年)

2021年度からは JR東日本 スイート・トレイン四季島、
星野リゾート界箱根、強羅温泉 季の湯 雪月花 等に採用



小田原かなごてソーラー事業概要 1号機

施設概要	施設名	小田原かなごてソーラー太陽光発電所		
	所在地	神奈川県小田原市曾我岸604		
事業目的	意義	農業+エネルギー=農業再生！！地域を元気に！！		
農業	生産物	さつまいも		
補助金	事業名称	神奈川県地域主導再生可能エネルギー事業		
	補助金額	136万円		
太陽光設備	モジュール容量	15.12kW	モジュール	京セラ製 270Wモジュール
	架台	発電設備下での営農事業に適した特注架台		
発電事業	売電単価	24円/kWh(税抜) (固定価格買取制度)	売電期間	平成28年11月2日から 20年間
	年間発電予想量	15,997kWh		
	設備の特徴	①特注架台により、発電設備下の日射を確保した配置 ②営農作業を効率的に行えるよう事前から2500mmの高さを確保		
土地	設置面積	279.72㎡	地目	農地(一部転用)



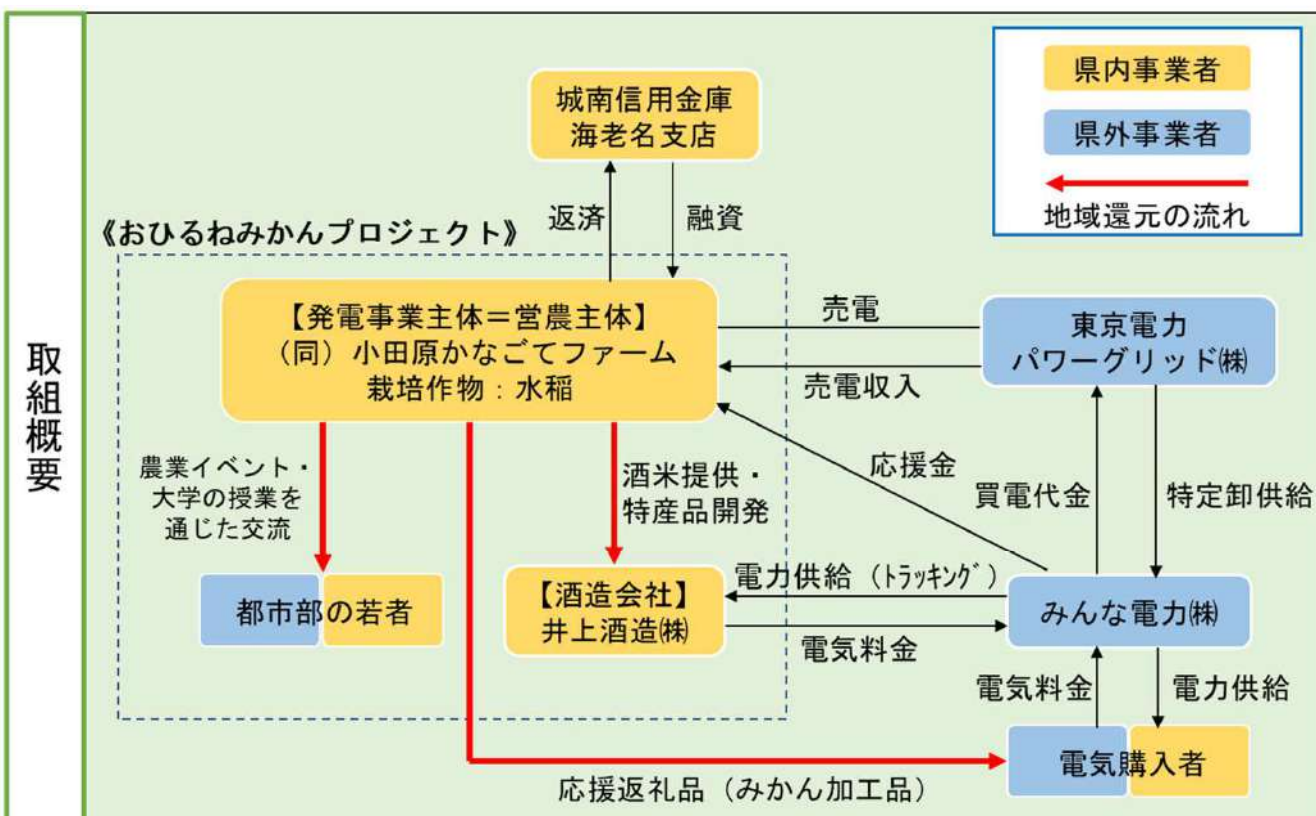
小田原かなごてソーラー事業概要 2号機

施設概要	施設名	桑原発電所		
	所在地	神奈川県小田原市桑原字石原88-1		
事業目的	意義	農業+エネルギー=農業再生！！地域を元気に！！		
農業	生産物	米（生産した米は日本酒の原料とする）		
資金	総投資額	14,500,000 円（内設備費用1,330,000 円）		
	融資内訳	城南信用金庫様 9,000,000 円 神奈川県補助金 6,650,000 円（返済義務あり、ただし金利0%）		
太陽光設備	モジュール容量	58.24kW	モジュール	京セラ製 280Wモジュール
	架台	発電設備下での営農事業に適した特注架台		
発電事業	売電単価	21円/kWh（税抜） （固定価格買取制度）	売電期間	平成30年6月から 20年間
	年間発電予想量	62,227 k Wh		
	設備の特徴	①特注架台により、発電設備下の日射を確保した配置 ②営農作業を効率的に行えるよう地上から3000mmの高さを確保		
土地	設置面積	812.14㎡	地 目	農地(一部転用)



【営農型太陽光発電：合同会社小田原かなごてファーム】 耕作放棄地を解消し、地域の未来を担う人材を育てる事例

- ✓ 小田原かなごてファームは、市民有志ではじまった地域の特産品であるみかんの畑を再生する「おひるねみかんプロジェクト」を通じて、地域に眠る“資産”を活用して地域課題解決に取り組む様々な事業を行っている。その中で、耕作放棄地を活用してエネルギー（電気）と農業を同時に取り組む営農型太陽光発電を始める。
- ✓ 農業イベント等で若い人材の積極的な関与を受け入れたり、生産した酒米は地域内の酒造会社で加工するなど、次世代の地域と農業とエネルギーを担う人材育成や地域との連携を意識して取り組んでいる。



(※)写真提供：合同会社小田原かなごてファーム

所在地	神奈川県小田原市
発電事業主体	合同会社 小田原かなごてファーム
発電所名	小田原桑原ソーラーシェアリング 2号機
電源種別	営農型太陽光発電
発電容量	DC 58.24kWp／AC 38.5kW
運転開始時期	2018年3月 ※2019年9月台風により倒壊 2020年5月再建



田植え体験イベント(※)



ソーラーシェアリング下で出来た自然栽培100%米使用日本酒“推譲”完成



各メディアに続々

- 小泉元総理、中川秀直元自民党幹事長にも飲んでもらいました。





電気の紐づけという選択



売電(FIT)

みんな電力

プレミアム価格
での提供

供給

みんな電力は更に「顔の見える
発電所」として電気のクラウドファン
ディングともいべき展開をして
いる。

ユーザー1人1人のに電気料金の中
から100円が個々の発電所に
寄付できる仕組みがある。



日本YWCA
The Young Women's Christian
Association of Japan

全国初 Non-FITモデル オフサイト型自家消費型のソーラーシェアリング

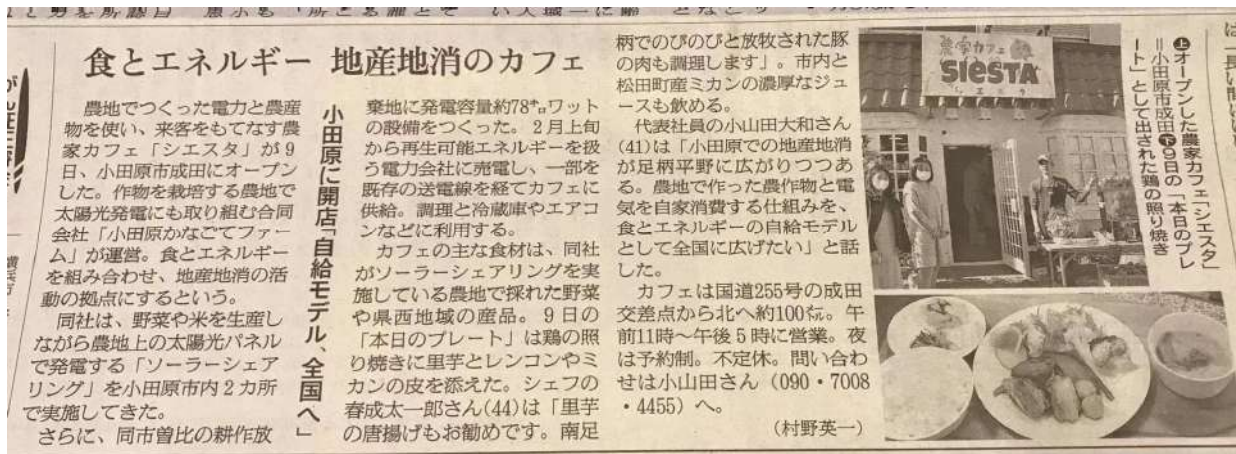








食・エネ自給を目指す 農家カフェSIESTA開店



左) 神奈川新聞 右) 東京新聞

建設中のソーラーシェアリングを前に再生エネの自家消費モデルを語る小山田さん
＝小田原市曾比＝

全国初「自家消費」

既存線で送電

農地の上に建設した太陽光発電所でつくった電気を「自家消費」して営業するカフェが9日、小田原市内にオープンする。太陽光発電所と電力需要施設を直接つないで電気を供給する方式はこれまでもあったが、両者を既存の送電線でつなぐ「オフサイト」方式では全国初という。運営する合同会社「小山田原カフエ」方式では全国初という。運営する合同会社「小山田原カフエ」方式では全国初という。運営する合同会社「小山田原カフエ」方式では全国初という。

同社はこれまで市内の耕作放棄地を借り受けて農作物を育てる一方、その真上に太陽光発電所を設置するソーラーシェアリングを主力所設置。農業収入に売電収入を加える新たな農業の在り方の構築に取り組んでいる。

今回のカフェは3年ほど前から構想はあったが、当時は技術的に難しいとされていた。だが再生可能エネルギー（再エネ）で発電された電気を一定期間、固定

農地に建設 太陽光発電所

あす開店 小田原のカフェ

9日にオープンする「農家カフェ・シエスタ」＝小田原市成田＝

価格で買い取る「固定価格買取制度」（FIT）の満了や売電単価が次第に下がっていく現状をにらみ、自家消費による脱FIT型モデルを構築した。

全国初のオフサイト方式による再生エネ電気の自家消費の仕組みはこうだ。太陽光発電所でつくった電気を新電力会社に売って、既存の送電線を通った電気が新電力会社によりカフェに供給され、それを飲む。売電単価などなかなか新電力会社と折り合いがつかなかったが、再生エネ発電による電気の100%供給を目指すグリーンヒールズパワー（GPP）と合意した。

方式も新しいが、資金調達は先駆的だ。城南信用金庫に信用保証協会を始め、融資を取り付けた。同社代表社員の小山田大和さんは再生エネは良い事業でも、資金が集まりにくいのが課題。信用保証協会は全国にある。今回が前例となったので、資金調達も楽になったと、小山田さんは期待する。

小山田原成田にオープンする「農家カフェ・シエスタ」では、旬の地場野菜を使った食事などを提供する予定。自社の畑の作物だけでなく、支援の意味も含めて周辺の農家からも仕入れる。年間1千万円ほどの売り上げを見込み、地域経済の循環にも期待する。

ソーラーシェアリングの設置場所にもこだわった。郷土の偉人・二宮尊徳が若い頃に田畑を耕した同市栢山地区周辺を探した。ようやく見つけた酒匂川沿いの松並木が残る地域は掘つてみると石が多く、費用は予定より600万円ほどかさんだ。

だが小山田さんにとめらななかった。「尊徳もこういう風景を見ながら開墾したはず。そこから今に残る報徳思想の原点をつけた。そういう土地で新しい農業の原点をつくりたい」。農家カフェの問いかけは、小山田さん2090（7008）44515。

2021年(令和3年)4月22日(木曜日) 横神 地域情報

電力と農作物 自家製で

農地で発電 小田原の会社 市内にカフェ

同社は東京電力福島第一原発事故で危機感を持った市民や地元農家が二〇一四年に設立した。市内一方所の耕作放棄地を再生し、イモや米を収穫しながら、年に計一百万円近い発電収入も得ている。

三つの目となる今回は、カフェ、ソーラーシェアリングに加えて、太陽光発電所とカフェに電力の出入りメーターを設置する。そして、農地で発電した再生エネ電力がカフェに流れていることを新電力側が証明する契約を結ぶ。

かねてより、農地の太陽光発電所とカフェに電力の出入りメーターを設置する。そして、農地で発電した再生エネ電力がカフェに流れていることを新電力側が証明する契約を結ぶ。

小山田社長「全国に広がる前例に」

約二〇〇年。かつてが収穫した作物、地元肉や魚の料理をカフェで提供し、食の地産地消を目指す。店員の長谷川美保子さんは、鶏肉の焼き肉がおいしいと、愛用。遊休ミカン畑で収穫したミカンを搾る「おひろみかん」をユースをほじめ、地元産の炭火で焼く。

固定価格買取取り制度の格差を下げ、再生エネ発電の普及を促す。小山田大和社長は、既存の送電線を使う自家発電・消費の方法は知られていないので、全国に広がる前例になれば、カフェなど組み合わせることで、再生エネ普及の妨げを減らす。ソーラーシェアリングへの関心を高めたい」と話す。

同社は今年、小田原市成田町の休耕地に太陽光発電所を新設する。SNSで集めた数百人のボランティアが農作物を育て、カフェで国産産物55種の成田交差点の北西角。午前十一時、午後五時、夜は予約営業。水曜定休。テイクアウトもできる。問い合わせはカフェ・シエスタ。電話070(8394)0386(八)。

そして、 愛川町で4号機を建設

- 費用800万円を市民出資を募集。
- 一口10万円、最低5口以上。でも、10万円でも可能ですよ、としたところ
- わずか、1日で800万円が集まってしまいました。出資者は15名。一名は寄付。
- 「市民の、市民による、市民のための」ソーラーシェアリング発電所の建設へ

食べ物(Food)、エネルギー、福祉
(Care)を自給し、地域でお金を廻
す。FEC+M自給圏の具体の取組
みをささやかながら実働させていく。



カフェの生ごみをコンポストで肥料化しソーラーシェアリングで育てた大根、春菊、ほうれん草といった野菜に巻いて栄養分とする。

ソーラーシェアリングで出来た電気をグリーンピープルズパワーの全面支援により、オフサイトPPAの方式で農家カフェSIESTAに届け、電気も自給する。ヤギに草刈りをしてもらう。



ポストコロナ社会を見据えた私が作りたい循環型経済の仕組みが金次郎の里ソーラーシェアリングにはある。

ささやかながら次世代の地域、環境社会のモデルがここにはある、と自負している。

また米を作り、地元の老舗酒蔵 井上酒造に依頼して日本酒推譲を作る。電気は米作りの上で発電した電気を使って製造。日本酒造りで使う電気は一切、二酸化炭素を出さない。



みんな電力のブロックチェーン技術を使って産地証明する。ここにもSDGS経営の具体の実践がある、と自負している。

